



## スロープシステムの更なる普及に向けた キーワードは地域とジュニア

現行のJGAハンディキャップシステム(USGAハンディキャップシステム準拠、通称スロープシステム)は5年目を迎えた。昨年から全倶楽部競技にスロープシステムを導入した嵐山カントリークラブ(埼玉県)では更なる普及に向けて新しい形を模索している。キーワードは地域とジュニア。岡田光正競技委員会委員長、池田憲治ハンディキャップ(HDCP)委員会委員長、角卓HDCP委員会副委員長、岡田光史HDCP委員会副委員長、永田浩一所属プロ兼キャディマスター代行に話を聞いた。



左から永田浩一所属プロ兼キャディマスター代行、岡田光史HDCP委員会副委員長、岡田光正競技委員会委員長、池田憲治HDCP委員会委員長、角卓HDCP委員会副委員長

—— 嵐山CCでは2017年からすべての倶楽部競技にスロープシステムを導入したと伺いました。まずは導入までの流れをお聞かせください。

岡田 光正 導入に向けての議論を始めたのは15年5月です。当時、私はHDCP委員会の委員長を務めておりまして、まずはHDCP委員に理解してもらおうと月1回の委員会勉強会を始めました。翌6月には倶楽部の会報にスロープシステムの簡単な説明を掲載し、会員みなさんにご理解をいただくという形をとりました。嵐山CCの現社長(吉田裕明氏)からは「いいシステムだからやろう」と

積極的な指示をいただいておりますので、非常に進めやすかったです。準備期間を経て16年3月の春分の日杯で試験的に導入。17年からは全倶楽部競技に広げた次第です。

池田 日本は倶楽部の中で決めたHDCPを使用して倶楽部競技を行うという土壌でしたので、最初は会員みなさんに理解していただけるだろうかとという心配はありました。それに、毎月HDCPが変動することで混乱を招くのではないかと懸念もありました。でも、我々HDCP委員で手分けして会員みなさんに説明するなどして、徐々に理解が広がっていったと感じました。

角 当時、私はハウス委員会にいたのですが、私の周囲では最初は「何だかよく分からないな」という声がありました。今でも仕組みまで完全に理解している会員は少ないと思います。でも、HDCPインデックスを活用してプレーすることを楽しむ会員は確実に増えています。換算表を見ながら「先月は君にHDCP2枚あげていたけど、今月は1枚か」といった会話がよく聞こえてきますよ。

—— 試験的に導入した16年の春分の日杯はどのような様子でしたか。

池田 1年近くかけて啓蒙活動をしていましたので、「これは何だ?」という方はいませんでした。むしろ「いよいよ始まったか」という雰囲気でした。スコアカード提出所にはHDCP委員が駐在して不明点などあればお答えする態勢をとっていました。それに、事務局が参加者のその日のコースHDCPがひと目で分かる一覧表をつくるなどしっかりした準備をしてくださり、非常にスムーズにいききました。



—— 事務局が行った準備を詳しくお聞かせいただけますか。

永田 初めてのことでしたから参加者のみなさんがとまどうことがないよう、その日のコースHDCPをうまくお知らせできる方法がないかと考えました。そして換算表から参加者の使用ティー別のコースHDCPを調べて一覧表を作成。その一覧表をフロント、ロッカー、ラウンジ、マスター室、スコアカード提出所に設置し、どこでも自分のコースHDCPを確認できるようにしました。さらに、キャディ伝票にもコースHDCPを記入してプレー中でも確認できるような態勢をとりました。現在もこのシステムは継続しており、会員みなさんは来場するとまず一覧表をチェックしてくださっています。

【ハンディキャップの歴史】(概略)

年代	欧米	日本
17世紀後半	HDCPの概念が広まり始める	
1900年頃	英国女子連盟が初のCR開発	
1911年	USGAが初めてCR導入 (全米アマ優勝者のスコア)	
1920年代~	全米各地区でHDCP システムの改善策考案	1950年代 JGA HDCP制度導入 (USGA制度を参考に開発)
1960~70年代	USGAが 障害難易度査定法を考案 現行HDCP制度の基礎完成	1978年 旧JGA制度施行 (USGA制度を参考に開発)
1979年	USGAがスロープシステム 開発着手	
1987年	USGAがスロープシステム 正式施行	
2010年~	現在世界約60の国と地域で採用	2010年 スロープ導入決定 (USGAとJGAが正式契約締結)
2014年~		スロープシステム施行 (USGAハンディキャップシステム準拠)

CR=コースレーティング

岡田 光正 事務局も初めてのことでしたが、本当によくやってくれました。

—— スロープシステム導入後、倶楽部競技での上位入賞者に変化はありましたか。

岡田 光正 HDCPの多い方や女性など、以前はあまり入賞できなかった会員が上位に来ることが増えてきました。

岡田 光史 マッチプレーで行う理事長杯は70歳以上の方がベスト4を独占しましたね。以前は人が決めるHDCPだったために入会間もない方がHDCPの調整がうまくつかないまま多めのHDCPで出場して優勝するというケースが少なからずありました。その点、HDCPインデックスはその時の自分の実力が客観的に反映されたものですから公平性が高い。かつて倶楽部選手権で上位に入っていたような方々が倶楽部HDCPからHDCPインデックスに移行したことで今の自分の実力を出せば勝ち上がっていけるように変化したと感じました。

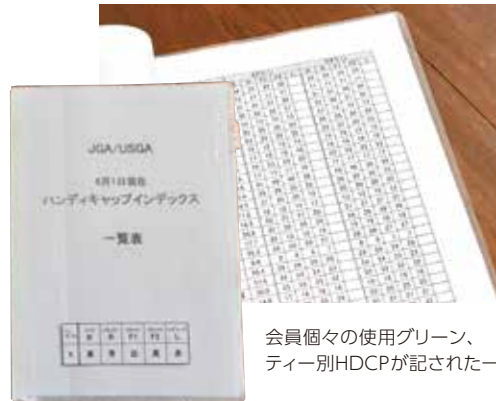




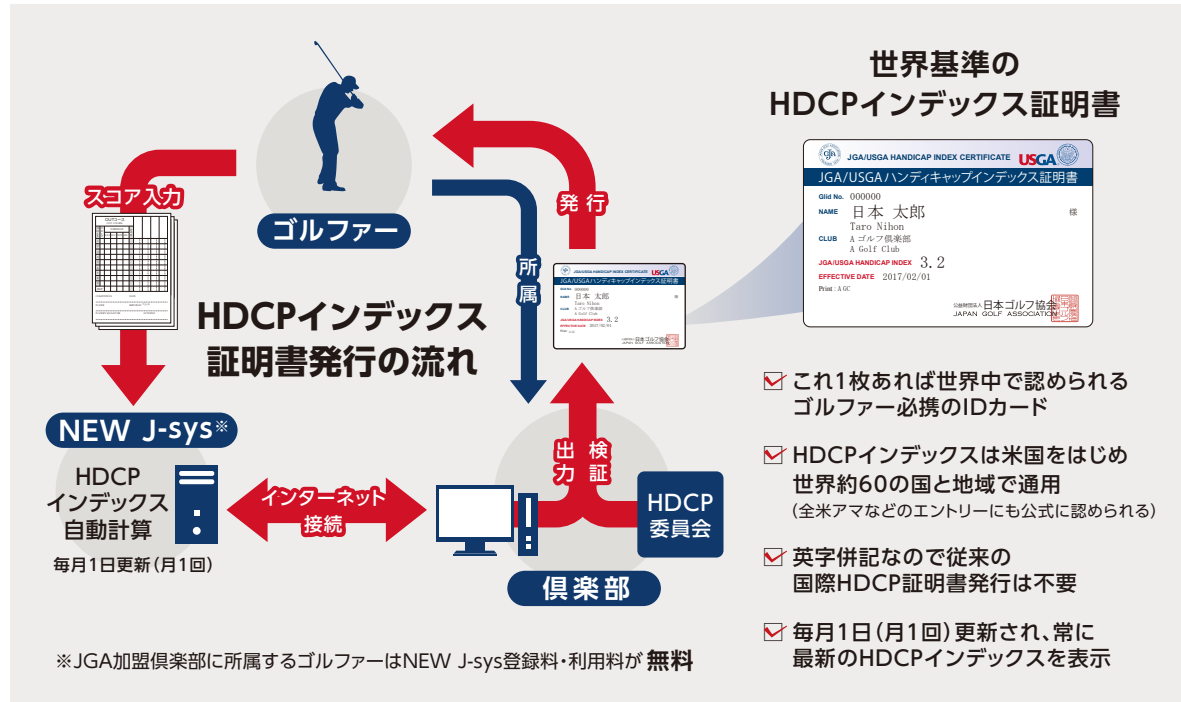
**岡田 光史** かつての倶楽部HDCPは倶楽部内での融和を図るために有効なものでした。一方でスロープシステムは他倶楽部や地域でのコミュニケーションをとるという意味で非常に重要なものだと感じています。地域でのコンペや競技にもっと活用していけばHDCPインデックスを持つ必要性が分かってもらえるのではないのでしょうか。強いて例えれば、関東倶楽部対抗のような大会にアンダーHDCPの部があるような。

—— スロープシステムをより活用していくための方法や競技など何か検討していることはあるでしょうか。

**岡田 光正** スロープシステムへの理解をさらに深めていただくためにHDCPインデックスを使って楽しんでもらえる競技を考えていく予定です。たとえば、HDCPインデックス別にいくつかのクラスに分け、それぞれのクラスでスクラッチ競技を開催する方法もあると思います。HDCPの多い方はスクラッチ競技をやったことがあまりないと思いますので、新しい体験をしていただけるのではないかと考えています。



会員個々の使用グリーン、  
ティー別HDCPが記された一覧表



—— 関東倶楽部対抗は基本的にトップクラスのプレーヤーが倶楽部の代表となりますが、HDCPインデックスをうまく活用できればアベレージクラスの方も倶楽部代表として大舞台でプレーできる可能性が出てきますね。

**岡田 光史** そう思います。私は、スロープシステムの普及には2通りあると考えています。ひとつは個人でHDCPインデックスを持つこと、もうひとつは倶楽部として競技で導入することです。倶楽部競技に導入しているところはここ埼玉県ではまだ少ないのですが、HDCPインデックスを持っているプレーヤー自体は結構いるのではないかと感じています。



—— NEW J-sys登録者は現在、全国で約60万人です。

**岡田 光史** この60万人をどう動かしていくかがより普及させるための課題だと思います。

**角** 人数の多いHDCPインデックス10~20あたりの層にいかに関心を持ってもらうかも大事でしょうね。

**岡田 光史** 地域だけではどうすべきか分からない可能性がありますので、JGAから地域でできる仕組みのモデルケースを発信していただければありがたいと思います。

—— ご提案ありがとうございます。ほかにもご意見が



16年春分の日杯で使用したスロープシステムに関する説明書



ありましたらお聞かせください。

**岡田 光史** 私は子供のころからHDCPインデックスを持つことを習慣づけることが重要だと考えています。ジュニアゴルファーは全員がプロになるわけではありません。プロにならなかった子供たちが社会人になったときにすでにHDCPインデックスを持って活用しているということが普及の源になるのではないのでしょうか。たとえば日本ジュニアの出場資格は「NEW J-sys登録者」というだけで、具体的にHDCPインデックスいくつ以内というのがありません。具体的な数字を設けることで子供たちのHDCPインデックスへの意識は高まると思います。それに、HDCPインデックスを用いたジュニアの大会があってもいいのではないのでしょうか。日本ジュニアを目指していても関東の選手なら関東ジュニアで落ちてしまえば夏休みの試合がなくなってしまいます。そういった子供たちを救済する意味でもHDCPインデックスを用いた大会があってもいいと思います。先ほど岡田競技委員長が提案していたHDCPインデックスでクラス分けした中で、スクラッチでプレーするような形でもいい。とにかく子供のころからHDCPインデックスに親しめる環境を整えることが必要だと考えています。

**岡田 光正** せっかく始めたスロープシステムですから、しっかりと普及して行ってほしいものです。嵐山CCでも導入後に会員のみなさんから「(ネット)アンダーで回れたよ」といった喜びの声を伺っていますし、とても楽しんでおられる方が多いと感じます。私自身も非常に公平でいいシステムだと思います。私たちも倶楽部や地域でより楽しめる方法を考えていきたいですし、JGAさんももっと宣伝して広めて行ってほしいと願っています。

—— 貴重なご意見、ありがとうございます。